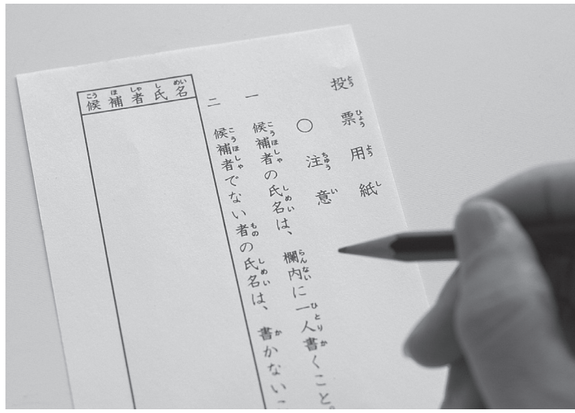
2月25日(日)は、宇美町長 および宇美町議会議員一般選挙の投票日です。

選挙管理委員会は、3月5日任期満了に伴う宇美町長および宇美町議会議員一般選挙の日程を次のように決定しました。

■ **投票日**
2月**25**日（日）

■ **告示日**
2月20日（火）

■ **投票できる方**
平成12年2月26日までに生まれた日本国民で、平成29年11月19日までに転入届を行い、引き続き住民基本台帳に記載され選挙当日まで宇美町に住所を有する人。



期日前・不在者投票

▶ **期間**　**2**月**21**日（水）～**24**日（土）
▶ **時間**　8時30分～20時
▶ **場所**　宇美町役場　1階　多目的ホール

立候補予定者説明会

▶ **日時**　**1**月**26**日（金）14時～
▶ **場所**　宇美町役場　2階　大会議室（左）
▶ **必要なもの**　筆記用具、印鑑（インク式の印鑑以外）
※ 出席人数は、立候補予定者につき3名以内でお願いします。

問い合わせ　選挙管理委員会　☎932-1111

町制施行100周年記念事業

シンボルマーク・キャッチフレーズの使用について

町制施行100周年記念事業 シンボルマーク・キャッチフレーズは、当町が2020年10月20日に町制施行100周年を迎えるにあたって、町民の皆さまの思いや行動を一つにするとともに、町のPRと宇美町応援隊を町内外に広めたいという思いから作成したものです。

見つめようこの百年、うみ出そう次の百年。

町民の皆さまや、企業・団体などの皆さまが作成されるポスターやパンフレットなどへの掲載にご活用いただければと考えています。そして、町制施行100周年のPRにご協力いただきますとともに、町制施行100周年をともにお祝いしていただきますようお願いします。

▶シンボルマーク・キャッチフレーズの使用にあたって

使用にあたっては、申請書の提出が必要ですが、①学校その他の教育機関が教育等の目的で使用する場合、②地方公共団体、商工会、社会福祉協議会その他公共的な活動を行う団体が使用する場合、③使用取扱要綱を守り個人的に使用される場合などは、申請が不要です。詳細は、使用取扱要綱（町ホームページなどでご確認できます）をご覧いただくか、下記へお問い合わせください。

問い合わせ　町制施行100周年事業推進事務局
☎932-1111（内線221）

第19回 宇美町少年・少女の主張大会 最優秀賞

（中学校の部・小学校の部）

オズハーベストマーケット
宇美南中学校 2年 坂本 蒼空

ここは、あるスーパーマーケット。果物や野菜、パンやコーンフレーク、ビスケット…。これらの商品は、全て無料です。利用者はかごいっぱいに商品を入れても、無料。レジもありません。皆さん、そのスーパーに行ってみたくなりましたか？

そのスーパーの名前は、「オズハーベストマーケット」。オーストラリア、シドニーにある、世界初の、無料のスーパーです。賞味期限ギリギリの食品を、大手スーパーや個人などから譲り受け、提供しています。運営は、スーパーを利用する人の「寄付」でおこなっています。

わたしが驚いたのは、日本にはないこの「感覚」です。もし、このようなスーパーが日本にあったら、皆さんはどんなふうに思うでしょうか。「えっ、賞味期限ぎりぎり？食中毒になったら誰が責任をとるの？」このような、否定的な意見が多いのではないでしょうか。

しかし実は、海外では、家庭で余っている食品を持ち寄って、困っている人に提供する「フードドライブ」という取組が、あたりまえのように行われているのです。いったいどれだけの日本人が、この取組を知っていたでしょうか。私はオズハーベストマーケットのような取組が、なぜ今まで日本で根付かなかったのか、改めて疑問に思いました。

皆さんは世界中で飢餓、つまり食べ物がなく、死んでいく子どもは、一日に何人くらいいると思いますか？千人…？五千人…？それはおよそ一万九千人。一日に、一万九千人の子ども達が、食べるものがなく、飢えて死んでいるのです。「支援」のために、世界で使われている食料は、320万トン。一方この小さな日本で棄てられている食料は、600万トン。まだ食べられるのに、棄てられてしまう食品を「食品ロス」と呼びます。飢えで死んでいく一万九千人の子どもたちと、私達日本人の、600万トンの食品ロス…。

そんな中、東京都や、私達の住むこの福岡県は2016年、消費期限が迫ったコンビニのパンや弁当などの、フードドライブを始めました。熊本や大分で起こった地震のときにも、フードドライブは実施されたそうです。日本の企業も、動き出しています。

それでは、私達ができることは何でしょう？それは、冷静な目をもって、判断することです。あなたはスーパーで一本50円のきゅうりと三本100円のきゅうり、どちらを買いたくなりますか？三本100円のきゅうりですよね。私もそうです。でも、それは本当に必要ですか？飢餓問題や食品ロスへの無関心が、多くの子どもたちの命を奪っています。腐らせて棄ててしまうくらいなら、私達は一本50円のきゅうりを、買うべきです。あなたの冷静な判断と、家庭で培われた、食品を大切にしようという思いは、外食や、学校での給食にもきっと表れます。残さずに感謝して食事をすることで、こころからの「ごちそうさま」がうまれるのです。

「Give if you can.」「Give if you can.」「あなたが可能なら、協力して」シドニーのオズハーベストマーケットには、こうあります。さあ始めましょう。私から。そしてあなたも。私達の、私達自身で作り出す「オズハーベストマーケット」を。

自分も楽しく、相手も楽しく

宇美小学校 6年 竪山 凜

みなさんは、「ボランティア」という言葉を知っていますか。「ボランティア」とは、自分が出来ることで何かを助けたり、何かを元気にしたりすることを言います。私は、「UMIプロジェクト」という団体で、自分の住む宇美町を歌で元気にするための活動を行っています。

私がボランティアを始めたのは、小学校一年生のときです。始めたきっかけは、母に、「一緒にやろう。」と勧められたことでした。私は、小さいころから歌うことが大好きで、人前に立つのが好きな性格です。そんな私は活動することが、とても楽しかったです。しかし、まだだれかのために、という気持ちは自分の中にありませんでした。初めてのステージの日。とても緊張しました。いざステージに立って、見ている人の表情を見ると、その緊張はほぐれ、大好きな歌を思いっきり歌うことが出来ました。私の歌を聞いてくれた人達のはく手や、笑顔になっている姿を見て、私の歌声が、たくさんの人に喜んでもらえることに気付くことが出来ました。今でもそのおかげで、だれかのために何かをするということが、とても好きです。

イベントが終わったあと、私にはすごいごほうびが待っています。それは一緒に活動しているメンバーの方と味わう達せい感です。「今日の凜ちゃん良かったよ。」や、「みんなでやって楽しかったね。」という言葉は、私にとってもすごいごほうびになります。私にとってのボランティアは、歌って、見てくれている人を笑顔にするということです。その裏では、たくさんの方に支えられています。私の母もその一人です。一つのイベントでどんな歌を歌うのか、どんなことをすれば、見てくれている人に喜んでもらえるかなどを考えたり、話しあったりしてくれています。

私は、ボランティアとは、「自分も楽しく、相手も楽しく」だということに気付くことが出来ました。また、一人では出来ないことや、たくさんの人と一つのことをして、なしとげたときのうれしさも知ることが出来ました。

今、私はもっと歌がうまくなるように、練習をがんばっています。そうすることで、宇美町を歌でもっと元気にしていきたいです。